



めい きょう かん
明 教 館
Meikyokan (former feudal school)

旧幕時代、教育制度という点では、日本はあるいは世界的な水準であったかもしれない。藩によっては、他の文明国の水準をあるいは越えていたかもしれなかった。

伊予松山藩では、
「明教館」

という藩校がある。藩士の子弟はことごとくそこに入る。明教館には小学部が付属しており「養成舎」といった。普通、数え年八つになれば入学した。

司馬遼太郎著『坂の上の雲』（文藝春秋刊）単行本：1巻より

文政11（1828）年、11代藩主松平定通が藩士の教育機関として創設した藩校。数多くの人材を輩出し、明治以後も松山における近代教育の中心として発展した。この建物は明教館の講堂で、当時の面影を現在に伝えている。当時は一番町にあったが、昭和12（1937）年にこの地に移築された。

『坂の上の雲』にもゆかりが深く、正岡子規の外祖父である大原観山が明教館の教授として子弟の教育にあたったほか、幼少の秋山好古が通った学校でもある。



昭和12(1937)年 移築当時の明教館
Meikyokan was relocated in 1937.

This is the feudal school founded as an educational institution for feudal retainers by the 11th feudal lord, Sadamichi Matsudaira in 1828. Many people passed through the school and even after the Meiji era, it developed as a center for modern education in Matsuyama. This building is the school hall of the Meikyokan, and today it conveys an idea of how it used to look. Originally the school was located in Ichibancho, but in 1937 it was rebuilt here.

The association of the school with the novel *Saka no Ue no Kumo* (published by Bungei Shunju) is deep. Shiki Masaoka's maternal grandfather Kanzan Ohara taught young people as the professor of the Meikyokan, and in his childhood, Yoshifuru Akiyama also went to the school.